HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	はじめに
Author(s)	山田, 孝
Citation	北海道大学突発災害防災・減災共同プロジェクト拠点平成30年度報告書, 30
Issue Date	2019-03-05
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/73812
Type	other
File Information	2-Introduction.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

はじめに

北海道大学突発災害防災・減災共同プロジェクト拠点は平成 27 年 4 月に創設され、本年度が当初計画の最終年度となります。本共同プロジェクト拠点は、「理系・文系といった学部の枠を超えて自然現象と社会構造を同時に取り扱い、新たな災害対策への提案を行う」ことを目的に、農学研究院、理学研究院、工学研究院、文学研究科、公共政策大学院に所属する防災関係の研究者 14 名でスタートしました。その後、参加者も増え、平成 30 年度時点では 20 名の体制となっています。

この 4 年間のうちにも、平成 28 年台風 10 号による十勝川流域土砂災害、平成 30 年北海道胆振東部地震による土砂災害など多くの激甚な災害が発生しましたが、災害規模が大きくなるほど被害形態が多様となり、本共同プロジェクト拠点メンバーによる共同調査・研究も積極的に行われることとなりました。

研究開発としては、多数の論文発表を行っているほか、平成 30 年度から 3 年間の科研費基盤研究（A)「連鎖複合型災害現象のメカニズムと人口急減社会での適応策」が採択され、共同研究も本格化しています。

防災教育としては、大学院共通授業「突発災害危機管理論」を開講して人材育成を図っているほか、北海道庁の「治山技術者中堅職員特別研修」、（一財）北海道開発協会の「建設事業専門研修会」等への講師派遣を行うなど、地域を守る防災技術者へのリカレント教育も行っています。

社会貢献活動としては、北海道内各地で地域の特性を踏まえた防災・減災リレーシンポジウムを開催したほか、激甚な災害後などには調査報告のためのセミナーやフォーラムを開催して、一般の方々にも研究成果の公開を行ってきました。また、多くの行政機関の委員会等にも参画しています。

本プロジェクト拠点は平成 31 年 3 月末で終了となりますが、農学研究院寄附講座「国土保全学研究室」と発展的に統合し、4 月 1 日より設置される北海道大学学内共同施設（研究施設)「広域複合災害研究センター」の活動に引き継がれます。今後も総合的な防災研究が拡充されるよう、皆様のご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

北海道大学突発災害防災・減災共同プロジェクト拠点

拠点長　山田　孝